

グループホーム こもれび

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一同で、意見を出し合い作った目標を理念としている。	○	こもれびの温かな日の中で、光と希望に満ちた生活を、地域の一員として穏やかに過ごして頂けるよう努めます。 ・個人の生活に近づけるよう 個人個人を尊重し尊厳を守ります ・良質な介護を提供できるよう サービスの質の向上を目指し自己研鑽します。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時、理念を確認し、実践に生かせるよう心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はスタッフや家族のめにつく所へ掲示し、理解していただくように努めている。又、行事等に参加して頂く機会を持ち、地域の方々へも理解をして頂けるように努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩等でお会いした時、挨拶を心掛けています。又、年数回、外部の方をお誘いし行事を楽しむようにしています。	○	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議にて、地域行事に参加出来るようお願いするも、現在は行事ごとが少なくなってきた。参加出来る行事には出来るだけ参加し、交流をしていこう、努めている。	○	地域の小学校で行われた、夏祭りに参加することが出来、入居者皆、楽しめました。

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員、入居者と、地域の衛生活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者、職員を含め、内部評価・外部評価資料を参考に事業所の改善に努めている。	○	評価を受けることによって、今後の実践に生かしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告事項が多いが、貴重な意見を伺う事が出来、ミーティング時に職員に報告し、サービスの質の向上に活かすように努めている。	○	次回運営推進会議にて、評価の報告をし、意見を伺い、再度検討していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターへ、足を運び情報収集を行っている。又、地域包括センター主催のグループホーム交流会へ参加。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方もいるので、情報収集を行うよう努めている。又、入居者御家族より相談があった時には、相談内容に応じ情報の提供をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング時に、情報交換する事で、再度認識を深め防止に努めている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時には、十分時間をかけ納得して頂けるよう努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見が言いやすいような関係作りに、努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度、普段の生活を写真付き新聞にて報告。二月に一度、処方箋を送り服薬されている薬の報告。金銭については、残金の報告と領収書を郵送している。来所時には、口頭で普段の生活について説明している。その際に、職員移動があったときは、報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族が、要望や意見を言いやすいような関係と、雰囲気を提供できるよう心がけている。又、直接言いにくい場合は、意見箱の設置にて対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人で行われる責任者会議にて、職員の意見等提案する機会を設けている。又、年一回アンケート形式で、個人の意見を言える機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ勤務の変更や、基準以上の人員の確保。必要な時間に職員が不足するときは、法人へ応援を呼びかけ職員を確保している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>就業時、引き継ぎ時間を設け、入居者との関係を深めるよう努めている。又、勤務に慣れ、入居者が戸惑うことの無いよう考慮している。</p>		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用時、年齢、性別により除外することなく、個々の能力、やる気を優先している。働く職員についても、個々の意見が言え、生き生きと勤務が出来るよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権を尊重したケアが継続できるよう、職員ミーティング時に学習している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験に応じ、入職時の研修期間、研修内容を変更している。必要に応じ、法人へ、研修に行くこともある。ホーム内では、月1回学習会の時間を設けている。希望により、ホーム外研修の機会も設けている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームを、勉強のため訪問、又は、訪来して頂き、交流の機会を設けている。お互いに、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士のコミュニケーションも大切なものと認識している。年に数回法人全体の食事会の場を設けている。又、悩み不安等相談できるよう努めている。</p>		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々にスキルアップ・目標を持ってもらい、講習会等の希望により、勤務の調整を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに、ホームに来て頂くか、ご自宅へお伺いさせていただき、ご本人とお話をするよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに、時間をかけ話す時間を設けている。ご本人の前では話づらい内容は、日をあらためるか、電話にて対応し、話しやすいよう努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の状況や、現状のサービス内容、問題点などをうかがい、了解を得て必要に応じ、ケアマネージャーや医療機関へ、情報提供を受け、提案・支援出来るように努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するまでに、ホームへ見学に来ていただいたり、他の利用者と交流していただいたり、ご家族と相談し個々にあったサービスの開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から料理や歌などを通じ、学習することも沢山あり、一緒に楽しみながら過ごしている。入居者一人一人との会話や援助を通じ、支え合う関係を築いている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現状の報告を行い、ご本人の為にどうしたらいいか、相談し、又、意向も伺いながら支援していくよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族から入居日までに、ご本人の事につき、現状のみでなく今までの経過についても伺い、理解に努めている。入居後も御家族との関わりを大切にしよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で、馴染みの物を持ってきて頂いたり、馴染めの方が気軽に来所して頂けるよう努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	身体機能や性格などを考慮して席順を決めたり、職員が会話の橋渡しをする等工夫している。	○	席順で問題があれば、職員が間に入って、他の入居者とも円滑に交流できるよう努めている。場合によっては、席順の変更も行っている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も連絡を取り、ホームで行われる行事等に参加を呼びかけ、交流を図り関係の継続に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後のアセスメントや、センター方式の採用によって日々の暮らしの状況が把握できるようにしている。又、入居者や、家族の思いや意向を把握するように努めている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報収集やフェイスシート、センター方式などにより生活歴の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別な変化はケース記録へ記載し、申し送りを行っている。又、業務日誌にも記載。月一回のミーティング時に一人一人について話し合い把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・要望を取り入れ、担当者会議での検討や、関係者との話し合いを行い、個別に介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングや個別に担当者との話し合い、ケース記録での気付き等、介護計画の見直しや新たな計画の作成に活かしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ個別に詳しく記載し、情報を共有している。又、個別に情報を共有できるようにミーティング報告書を作成している。入居者一人一人に、担当者を決め、把握している。意見は、介護計画の見直しに活用するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人や、ご家族の状況や希望を考慮し、支援している。		

グループホーム こもれび

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームで行う行事で、ボランティアの方に来ていただいたり、消防訓練の際には、消防に協力を依頼している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、医療面からの支援を得る等行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ、相談を行う等している。権利擁護サービスを利用している方もいるので		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、協力医療機関も含め、必要な医療が受けられるように対応している。又、当法人より定期的な受診を行い、看護師による健康管理や状況把握に努めている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体であるかん養生クリニックは、認知症の専門医なので、常に相談することが出来、相談することができ、治療を受ける事も可能。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により、常時、看護師と連絡が取れるようにしている。又、健康管理や状況把握を行い、医療活用の支援をしている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院先の医師やソーシャルワーカーと連携するように努めている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		○	対象の事例はないが、今後の対応として終末期を迎えるにあたり、現段階での御家族の希望を把握するためにアンケートを作成し、伺っている。終末期を迎える場合、再度、ご家族の希望を伺い方針の検討をし、対応していきたい。
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		○	入居者の状態に備え、検討している。御家族や主治医等と相談しながら対応していきたい。
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	自宅での過ごし方や生活リズム、習慣など把握し、使い慣れた物を使用してもらうなど、不安に感じる事を軽減できるように努めている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報については、十分な配慮を行い、一人一人を尊重した言葉掛けや対応に努めている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人に合わせて声掛けを行い、本人の意思を尊重出来るように努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや希望を合わせて、出来る限り希望に添えるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出等で更衣を行う際は、本人と一緒に選んだり、本人の希望を優先している。美容室は本人の希望を伺い、援助できるように努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや配膳の準備、調理、後片付け等、本人の能力やペースに合わせてスタッフと可能な限り行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこ、お酒は該当なし。出来る限り希望にそえるように配慮し、提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握できるように努めている。又、日中の排泄は声掛け、誘導にて対応し、夜間のみリハビリパンツを使用している。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日毎に行っているが、可能な限り状況や希望に応じて柔軟に対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣を把握し、希望がある時や疲労を感じた際には、声掛けや援助にて休息して頂いている。一人一人のペースにあった個別援助にて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に合わせて、援助している。洗濯物を畳んだり、お茶碗を洗ったり、歌を歌ったり等している。又、企画を立て、外出したり、レクリエーション等により気分転換を行い、楽しみに繋がるように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと、不安になられる方には、ご家族了解のもと所持されている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り、個人の希望に添えるように対応している。また、安全面でも考慮しながら、趣味や活動を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の機会を設け、企画に応じて御家族もお誘いしている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に応じ、電話をかけるなど、援助している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に訪問して頂けるよう、居心地の良い空間づくりを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分に把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関にカギをかける事の弊害は理解しているものの、現状では危険を伴う為、希望により鍵を開けている。	○	夜間、戸締りを気にされ、居室の中からカギをかけられる入居者については、御家族了解のもと、2時間おきに室外より鍵を開け巡視を行っている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声掛けやプライバシーに配慮し、昼夜、見守りや安全には十分配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人に合わせ、危険を伴う物品は徹底管理に努めている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやり・はっと」や事故防止マニュアルや災害時のマニュアルを活用し、定期研修を通し全職員で事故予防の為の周知を徹底している。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに見直し、緊急時の連絡体制や対応など、学習会や研修を通じて職員への周知を行っている。	○	個々の職員が急変や事故に備えて、円滑に対応出来るよう、今後も定期的に研修や学習会を行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防による年2回の総合訓練、地震を想定した訓練を実地。地域の方たちとの関わりを大切なものとしている。	○	地域の方たちとの交流をよりいっそ、深めていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の入居者に起こりうるリスクについて、必要時には、御家族や職員と検討や話し合いを行い、対応策を検討して支援している。又、関係医療機関等へも、相談し状況の把握に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定、一日の水分量の把握や排泄状況を記録として残し異変があれば看護師へ報告を行っている。また、看護師によるバイタルチェックを定期的に行い、入居者の状態の把握に努めている。異変があれば母体の法人へ連絡、医師や看護師より指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方一覧表を作成して、職員が確認出来るようにしている。処方の変更、中止の場合は日誌の申し送りに記入して全員に伝わるように努めている。服薬の症状の変化については、看護師と連携し、確認するよう努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご飯に雑穀を混ぜたり、排便を促す為に食物繊維や乳酸菌を含む食材の提供に努めている。又、身体を動かすため、ラジオ体操タオル体操等を行っている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きは本人に行って頂き、職員は声掛けにて促したり、出来ないところの援助を行っている。一人一人の力に応じた援助方法にて支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は個別に調整が出来るように記録し、体重測定は月1回行い、変化などが把握できるよう努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染についての研修会(インフルエンザやノロウイルス、手洗いの方法など)を開いたり、ポスターを作り、御家族へも感染の呼びかけを行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の食品は定期的にチェックしている。又、布巾は毎日夜勤時に除菌、漂白している。調理器具は乾燥器で乾燥するようにし、肉や魚を調理する際は、包丁、まな板専用の物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲には、花壇や畑があり、入居者と一緒に花を植えたり、水やりを行ったりしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に育てた花をテーブルに飾るなどし、季節感を取り入れるようにしている。		

グループホーム こもれび

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルとソファが二つ、畳のお座敷もあり、ゆったりスペースを確保しており、個人の好きな場所で過ごせるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、今まで使っていた慣れ染めの物を、持ってきて頂けるようお願いし、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓を開け換気を行い、温度調節は適時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、トイレでは身体機能に合わせて、可動式の手すりを設置するなどしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の分かる力を把握し、混乱や失敗を防げるような声掛けや、見守りで対応している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者と一緒に、花壇、畑の水やり、収穫を楽しんでいる。	○	畑を増やし、もっとたくさんの野菜を植え、育て、収穫を楽しんで頂きたい。

グループホーム こもれび

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム こもれび

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、近隣が閑静な住宅や川・田園や公園と落ち着いた環境に恵まれた場所にあります。入居者の方へは、御本人に無理の無い以前と変わらない生活を送れるよう一人一人の希望に合った活動やリハビリを取り入れています。入居者と職員は同じ場所で生活を営む家族と考え、少しでも身近に感じていただけるように接することをモットーとしています。又、一年前にオープンした『こもれび』と、共同でレクリエーションを企画し、楽しんだり、お互い行き来でき、気分転換や楽しみを感じていただけるような場の提供をしています。夜間には、介護面での緊急時対応の連絡体制の充実、医療面では、母体の医療法人かん養生クリニックといつでも連携を取れるよう、看護師との24時間連絡体制にて対応を行っています。週1回、定期的に体調管理を行い、医療面からもサポートし、より良い生活を送れるように努めています。入居者の方へ、より良いケアを行うため、定期的に研修会を開催し、スタッフの技術・知識向上に努めています。